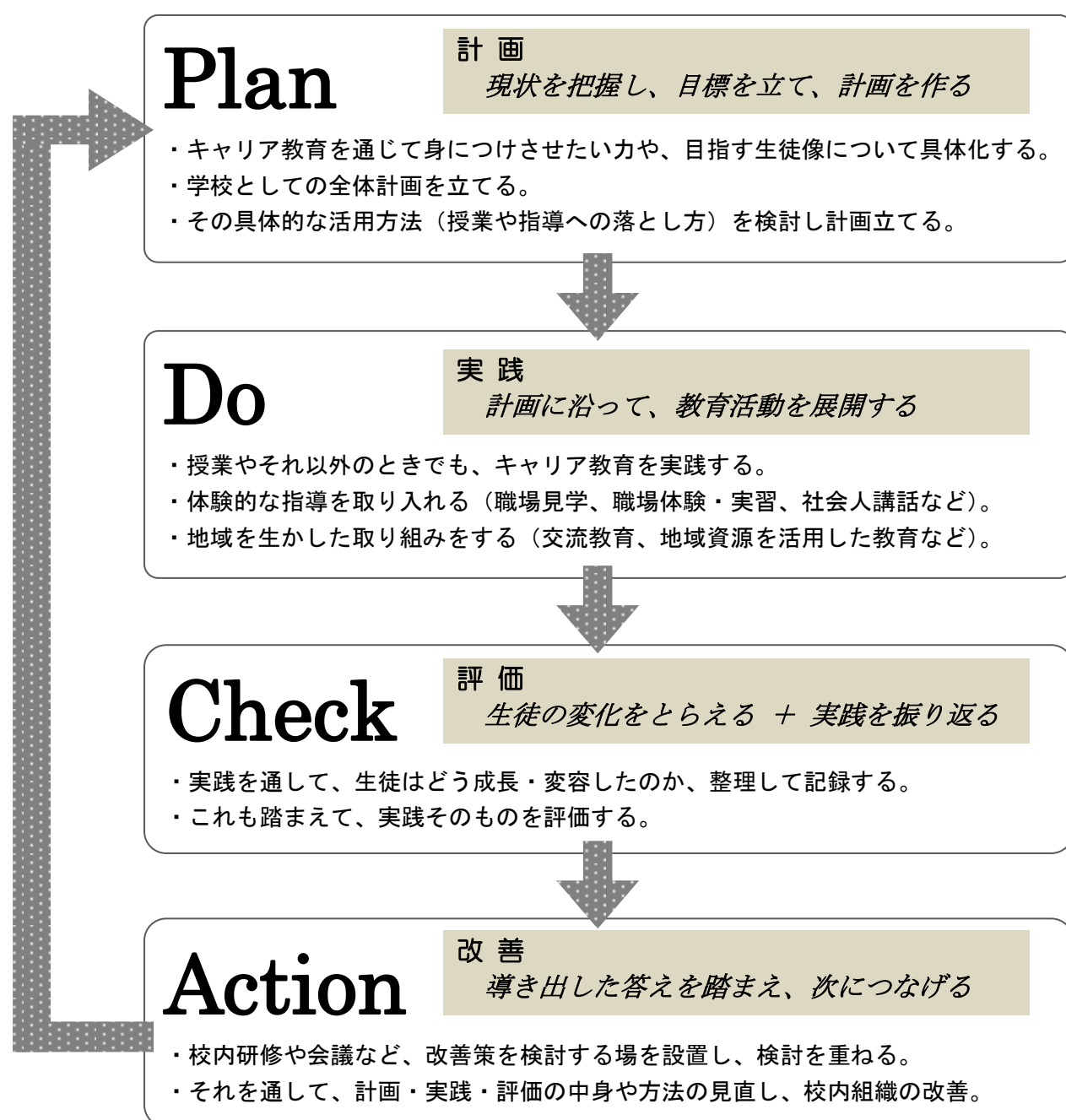


第4章 キャリア教育をするために

具体的に、「キャリア教育」を実践するためには、何をどうすればいいのでしょうか。本校では、研修部や研究推進委員会を中心として文献を読み、手探りながら進めて3年目となりました。3年間の成果と課題はそれぞれありますが、ここではこの3年間の実践例をご紹介しますので、各学校の実情に合わせて工夫を重ねていただきたいと思います。

おおまかな流れは、第3章で述べたPDCAです。もう少し具体的に表すと、以下のようになるでしょう。本校のキャリア教育研究も、およそこの流れで進めています。



1 Plan（計画）

計画を立てるよりも先に、「キャリア教育」に対する共通理解が必要です。第1章～第3章で述べたことは、本校で共通理解を図っていることです。共通理解をする内容としては、最低限これで事足りるかと思います。

♪ 共通理解の道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① 研究を司る部署等が先導して、研修日や学習会を設定するとよい。

本校の例：研究推進委員会が、年に4回の学習会を設定しています。

② なぜキャリア教育が必要なのか、ということの共通理解から入るとよい。

本校の例：データや道内外の実践を紹介して、一般的に行われていることだという意識を持ってもらいました。また、本校の離職状況など実情を根拠として紹介しました。

③ 難しい言葉は使いすぎない方がいい。かみ砕いた方がスッと入る。

本校の例：研修部や研究推進委員会が、第1～3章のような学習資料を作成・配布しました。

④ 先生方自身がまずキャリアを実感できるような研修を。

本校の例：先生方のキャリアを書き出して発表し合いました。

⑤ 先生方の思いも十分に引き出す働きかけを。

本校の例：付箋紙と模造紙を使って、グループに分かれて書き出してもらいました。

⑥ その思いと、キャリア教育を結びつけていく働きかけを。

本校の例：書き出してもらったことを、国総研のマトリックスに当てはめて示しました。

⑦ 研修の振り返りで、共通理解のダメ押しを。

本校の例：研修部だよりを作成し全教職員に配布しました。そこに学習会の成果・課題や用語解説を載せました。

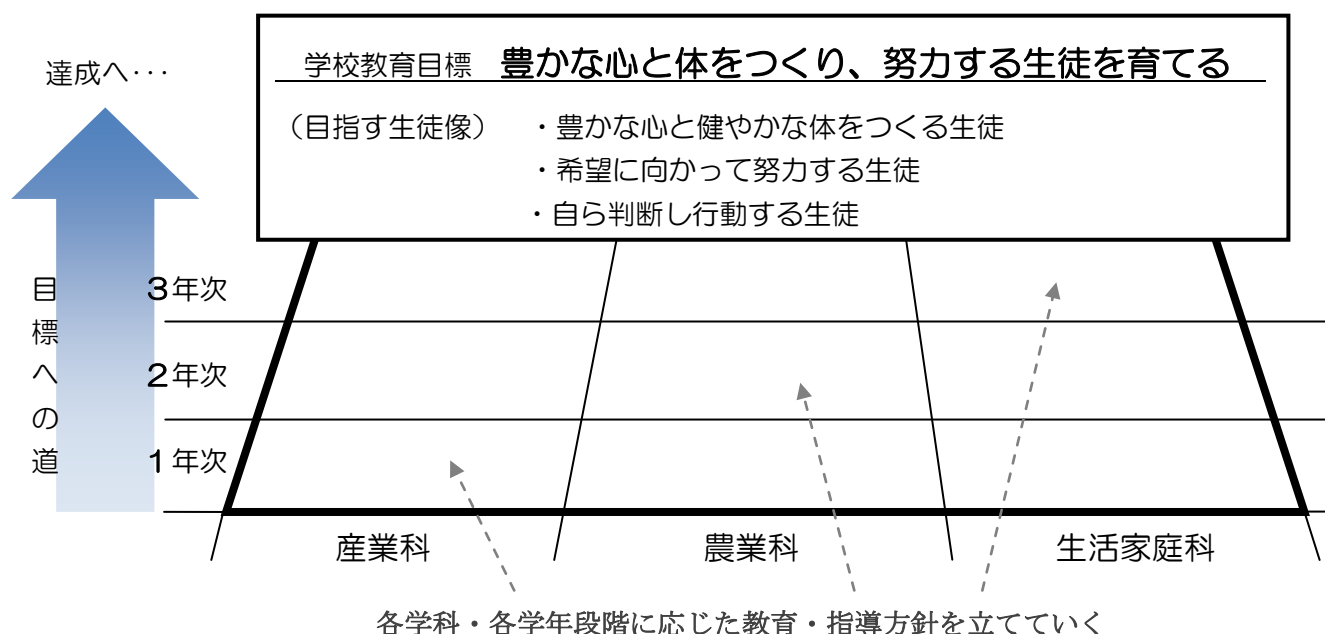
⑧ 人事異動があるたびに、①～⑦を繰り返す。

本校の例：転入者オリエンテーションの際に、これまでの取り組みや考え方を紹介しています。転入者に押しつける格好にならないよう、その後の学習会では一緒に創り上げるという意識を持ってもらえるよう内容や進め方を工夫しています。

⑨ 保護者や地域とも共通理解を（学校から発信を）。

本校の例：学校説明会、入学式後の新入生保護者懇談会で取り組みを紹介しています。その後の保護者懇談でも、理解と協力を得られるよう、内容や話し方を工夫します。地域へのアプローチは、まだ道半ばです…。

共通理解ができれば、学校としてのキャリア教育全体計画を立てることができます。本校の場合は、下図のイメージをもとに独自のキャリアプランニングマトリックス（資料1参照）を作りました。これが本校のキャリア教育全体計画であり、学校教育目標を達成するための教育方針と位置づけています。



♪ 計画作成の道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① 学校や生徒の実態をつかむ。

本校の例：作成当時の在校生と卒業生の実態を踏まえて作成しました。

② 目標を立てる。

本校の例：学校教育目標を最終目標としました。それに至るための、指導者側の目標として、各学科・各学年段階に応じた教育・指導方針を立てました。

③ 理想と現実の差を埋めながら計画を立てる。

本校の例：①と②を並べて、さらに本校でできること、やってきたこととも照らし合わせて、これらの均衡がとれる実現可能な計画を立てるように意識しました。

2 Do（実践）

全体計画を立てたことによって、自校の課題がより鮮明に見えてきます。そうしたら次は、今まで行ってきた様々な教育活動（教育課程、授業の題材、行事など）の一つ一つを再整理する作業をして、自校ならではの系統的な指導の形を作ります（資料2参照）。

♪ 系統的な指導の形の作り方（本校の3年間をもとに） ♪

① 今までの教育活動を、全体計画と照らし合わせて見直す。

本校の例：授業部会（生単部会・作業部会）において各授業のあり方を、教育課程検討委員会において時間割や全行事の内容を見直しました。

② 全体計画の内容を、学年経営案などに反映させる。

本校の例：学年経営案と学科経営案にある「目標」や「重点」は、マトリックスにある教育方針をより具体化したものになっています。

③ 見直したものをうまく繋げて、年間指導計画を作る。

本校の例：マトリックスを片手に、題材の取舍選択や配列、指導時期、指導体制など総合的に判断して作成しています。

あとは以下をポイントとして、意図的な指導を心がけます（資料3参照）。

♪ 授業づくりの道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① 生徒の実態をマトリックスで追ってみる。

…発達（キャリア発達）段階がわからないと、授業を作りようがありません。
その生徒がマトリックスのどの段階にあるのかをチェックします。

② それから単元指導計画を作る。

…生徒の実態に合わせるとともに、各計画との整合性も意識します。
マトリックスのどの段階の成長を促すか、明記したものが望ましいでしょう。

③ その際、意味付け・価値付け・重み付け・関連付けを意識して作る。

…最低限、どこに重点を置いて指導するかを明記した指導案を作ります。

④ 個別の指導計画の目標もミックスして、授業ごとの目標を立てる。

…③とも関連しますが、その授業でその子に何を学ばせたいか明確にしておきます。

⑤教材・教具、指導内容・方法、配布資料、言葉を工夫する。

…どんなものや言葉を用いて、こういった順で説明をするか、あるいは発問するか、そしてどんな反応があって、それを受けてどう返すかなどシミュレーションをします。

本校では、このように指導しています（本校学校教育計画及び指導内容表より要約）。

指導形態	指導内容・目標
日常生活の指導 (毎日)	更衣、排泄、食事、掃除、挨拶・礼儀等 …生活に必要な動作を適切にできる力を育む。
生活単元学習 (週4時間)	性教育、人との関わり方、衣食住の知識・技術等 …生活するために必要なあらゆる力を身につけさせる。
作業学習 (週10～11時間)	粗大系・微細系動作、報告・連絡・相談、流れ作業等 …働くために必要なあらゆる力を身につけさせる。
総合的な学習の時間 (週1時間)	現場実習事前・事後学習、職業理解、障害認知・自己理解等 …社会人として必要なものの考え方、判断力、課題解決能力を育てる。
国 語 (週1時間・実態別グループ)	漢字や文章の読み書き、文章読解、言葉遣い、聞く・話す等 …社会生活に必要な基礎的学力を身につけさせる。
数 学 (週1時間・実態別グループ)	数と計算、量と計測、図形、金銭、時間と時刻等 …社会生活に必要な基礎的学力を身につけさせる。
音 楽 (週1時間)	歌唱、器楽、身体表現、鑑賞 …音楽への興味関心を深め、明るく生活する態度と習慣を育てる。
美 術 (週2時間・生活科を除く)	絵画、彫刻、版画、その他造形 …造形への興味関心を深め、豊かな心情を育てる。
保健体育 (週2時間)	陸上運動、ボール運動、水泳、器械運動、スキー、武道 …体力を高め、明るく生活する態度と習慣を育てる。
体力づくり (毎日1時間)	マラソン、サーキット運動、エアロビクス …基礎的な体力向上を図り、健康で明るく生活する態度と習慣を育てる。
ホームルーム活動 (週1時間のロング・毎朝帰りのショート)	学級や学校生活をよりよくするための話し合い活動が中心 …社会や集団の一員としての在り方生き方についての自覚を高める。
生徒会活動 (週1時間の委員会活動)	生活、保健、放送、図書、体育の各委員会と執行部 …社会や集団の一員としての自覚を高め、望ましい態度と習慣を育てる。
自立活動 (教育活動全体を通して行う)	健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション等 …障害に基づく困難をできるだけ解消し、発達の可能性を最大限に発揮させる。

本校の代表的な行事では、次のようなことを指導しています（本校学校教育計画より要約）。

主な行事	指導内容・目標
体育祭 （6月実施）	応援合戦、学年種目、よさこい、全校綱引き・リレー等 …集団行動を通して仲間意識を高め、協力する態度を養う。
学校祭 （11月実施）	舞台発表（主に演劇）、生產品販売、全校合唱 …学習の成果を確認するとともに、今後の学習意欲の向上を図る。

本校の体験的な活動を通して行う行事では、次のようなことを指導しています（本校学校教育計画及び研究紀要『創』第16号より要約）。

主な行事	指導内容・目標
ピリカアウトドア （1年）	今金町の歴史・文化・自然を体験する活動 …地域の魅力を体感させるとともに、集団行動や公衆道徳を学ばせる。
社会見学 （1年）	卒業生の企業就労先・福祉的就労先を見学 …進路や将来の生活へのイメージを持たせる。
宿泊研修 （2年）	都市部における会社見学・研修、自主研修等 …社会生活に必要なルール・マナーを学び、進路選択への意識を高める。
修学旅行 （3年）	首都圏における政治・経済・文化に触れる見学、自主研修等 …社会生活を豊かにする知識と教養を身につけ、将来への意欲を高める。
職場見学 （1年）	2学年現場実習先を見学 …働く上で必要な力について学ばせ、進路や実習への意欲・関心を持たせる。
1年現場実習 （町内外の事業所）	全員引率実習、実働7日間 …職業生活・社会生活の基本やきまりを理解させ、自己の適性や課題を自覚させる。
2年現場実習 （町内外の事業所）	生徒実態に合わせて引率もしくは単独実習、実働9日間 …自己の能力や適性、課題を自覚させ、進路についての関心を高める。
3年現場実習（前提実習） （就労希望先）	全員単独実習、企業就労希望者7週間・福祉的就労希望者3週間 …職業生活への適応能力を身につけ、社会生活への移行へ結びつける。

※ 昨年度の研究推進委員会の提言を受けて、ピリカアウトドアと社会見学は今年度から、宿泊研修については次年度から上記のように行う予定です。

本校の地域環境を生かした交流及び共同学習では、次のようなことを指導しています（本校学校教育計画より要約）。

主な行事	指導内容・目標
国際交流学習 （２年おき実施・１年）	今金町国際国内交流事業（ニュージーランド・バーンサイド高校）の一環として行う。異文化に触れて社会性を養うとともに、日本の文化を共有し理解を深めさせることを目標とし、例年よさこいや流しそめん体験を行っている。
合同花壇整備 （毎年実施・農業科３年）	北海道檜山北高等学校の一部生徒とともに、町内の花壇に花を植える活動。植える花はそれぞれの学校で分担して栽培している。他校の生徒と目的をともにした活動に取り組むことで、社会性を養う。
フレンドリーライブ （毎年実施・全学年）	近隣の学校の合唱部や吹奏楽部と、本校生徒全員が音楽発表を通して交流する行事。音楽というツールを通して楽しみを共有することで、経験を広めるとともに、仲間意識や社会性を育む。
今金秋祭り （隔年実施・全学年）	秋の今金八幡宮例大祭における山車行列に参加する。途中、本校のよさこいを披露したり、露店を散策したりする。地域の人々との交流を通して、礼儀やマナー、地域住民とのコミュニケーション、地域文化について学ばせ、社会性を養う。

交流及び共同教育を行う意義としては、

- ① 生活経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる。
- ② 他校の児童生徒に対しては、仲間意識を育み、自らの生活姿勢や学習態度を省みる機会としてもらう。
- ③ 地域社会の人々に対しては、本校の生徒や教育に対して理解を深めていただく。

とおさえています。自校生徒と地域社会の相互に利があるような活動を意図的に設定していくことがポイントと言えるでしょう。

3 Check（評価）

計画をもとに実践したら、それを評価することで次へとつながられます。評価とは、生徒の変化（成長と課題）を捉える評価と、取り組み自体の成果と課題を捉える評価の2種類があります。

♪ 生徒の変化を捉える評価 の道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① 評価の方法は様々。

たとえば…

- ・ 授業の最後に、生徒に自己評価をさせ、それを回収する。
- ・ 授業の中で、生徒同士で評価しあう場面（相互評価）を設け、その様子を記録する。
- ・ ポートフォリオ評価（様々な活動の記録をファイリングする）。
- ・ 授業の様子を写真や映像に収める。

② つけやすい＋次につなげやすい評価・記録の様式を作る（資料4参照）。

本校の例：生単では、単元ごとに「単元記録表」を用意し、授業ごとに記録をしています。
作業では、学科ごとに評価（記録）用紙があり、授業ごとに記録をしています。
写真データは、校内LANの中で整理されており、評価に役立てています。

③ その際、評価・記録の観点を明確にしておく。

本校の例：授業の目標が達成できたかどうかを基準に評価・記録しています。

④ 様々な評価を組み合わせる。

本校の例：生単では、単元によっては生徒の自己評価を「単元記録表」に転記しています。

⑤ 評価を積み重ねる。

本校の例：評価はデータ化されています。積み重ねることで、生徒の変化がわかります。

♪ 取り組み自体の成果と課題を捉える評価 の道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① つけやすい＋次につなげやすい評価・記録の様式を作る。（資料4参照）。

本校の例：生徒の変化を捉える評価 ＝ 取り組み自体の成果と課題と捉える評価 とする傾向があります。これでよいのか、検討する余地があります。また、生単では単元が終わるごとに「単元反省」をします。反省項目はどの単元でも同じで、その単元の中身がどうだったかを担当者が相互に評価しています。

② 学校評価もよく見る。

本校の例：生徒、保護者、職員、評議員からの評価のまとめは、全職員に配布されます。これも踏まえて、取り組みの成果と課題を捉えます。

4 Action（改善）

評価をもとに、計画や実践に対する改善を検討します。目標に対して不足している部分を探し出し、取り組みの一つ一つを点検し、見直していく作業です。

♪ 新たな展開へとつなげる改善 の道しるべ（本校の3年間をもとに） ♪

① 会議を開いて、在り方を検討する。

本校の例：教科部会、形態部会、学科部会、学年部会などがあり、そこで授業や行事の内容や指導の方法、指導時期などについて検討しています。

② 個別指導・支援を工夫する。

本校の例：普段の授業や行事の中でその必要があるかを検討することはもちろんです。しかし、それ以外の場面で特別にこれが必要と判断された場合は、支援部（特別支援教育コーディネーター）や生徒指導部（生徒指導主事）の協力を得て放課後面談等を行う場合もあります。

③ 校内外で研修を行う。

本校の例：他校の実践例や新たな知識を吸収し、本校の取り組みの改善に役立てるため、校外研修を促進しています。また、キャリア教育学習会を開き、キャリア教育の観点を日常の指導・支援に浸透させていこうと試んでいます。

④ 校内組織の改善を図る。

本校の例：キャリア教育を円滑に推進していくための組織の在り方について、校務分掌検討委員会を設置して検討を進めているところです。

5 連携のあり方

① 教職員同士の連携

授業間連携

- ・その授業の指導効果を上げるために「関連づけ」を行う際には必須です。
- ・他の授業で指導したことと食い違いのないようにするためにも必要です。
- ・他の授業で指導する時期を踏まえて指導時期を設定するためにも必要です。
- ・教科等の枠を越えて打ち合わせをする機会を持つことをお勧めします。
- ・本校では、学年部会でこうしたすりあわせを行うこともあります。

分掌間連携

- ・その行事の運営や推進に複数の分掌組織が関わっている場合、その役割分担を明確にしたり、必要に応じて相談しあったりできる組織風土が必要です。
- ・いざ生徒の活動場面になって指導者が混乱していると、結果的に生徒がふりまわされることになります。
- ・指導者がしっかりとした仕事の仕方を見せることも、生徒のキャリア発達を促すきっかけとなります。

② 保護者との連携

- ・懇談では、保護者の願いや思いを受け止めながら、担任の思いも伝えつつ、よりよい指導や支援について話し合っていくことが必要です。
- ・そうした機会を踏まえて、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成に当たるべきです。
- ・こまめに学校の様子を保護者に伝えることで、保護者は学校での努力を褒めることができます。褒められると、生徒は成長します。写真や学級通信、連絡帳などを通じて、生徒の努力が伝わるように工夫しましょう。
- ・こまめに連絡を取り合うというスタンスを保つことで、学校と家庭がタッグを組んだ指導・支援が可能となり、生徒のキャリア発達を一層促すことができます。

- ・本校では、入学前の学校説明会や入学後最初の学年懇談にて、キャリア教育の必要性についてお話しています。
- ・本校では、キャリア教育上効果があると思われる活動において、保護者に協力していただく場合もあります。

（例１）作業学習の参観後、作業日誌（その日の反省）に対するコメントを保護者に記入してもらおう。保護者から直接から褒められたり、アドバイスを受けたりすることで、今後の学習への意欲を向上させることをねらいとしている。

（例２）生単や総合の「進路の学習」の一環として、保護者に「働くために大切なこと」「働いて嬉しかったこと、辛かったこと」「何のために働くのか」「自分の長所や短所は何だと思いますか」などのアンケートをとる（教職員にとる場合もある）。身近な大人に聞くことで学習にリアリティを持たせたり、他者からの客観的な評価を受けることで自分の成長と課題を見つめさせたりすることができる。

③ 関係機関との連携

- ・キャリア教育の推進上必要であれば、行政（教育委員会等）に資金面や物品面などで協力を求めることも必要です。例えば本校では、現場実習の通勤送迎用に今金町教育委員会からスクールバスの運行をお願いしていたりします。
- ・卒業生の進路先、在校生の進路先となるであろう事業所との連携も必要です。生徒の実態をしっかりと伝え、指導・支援に対する理解と協力を得なければなりません。現場実習や卒後支援においては必須です。
- ・身体もしくは精神上、各種医療機関や相談機関とのつながりを持つことが必要な生徒もいます。特別支援教育コーディネーターを中心に関係者を集めたケース会議を開き、生徒の指導・支援について足並みを揃える必要があります。その際、学校側としてはキャリア発達をスモールステップで促していくための方法を提案すべきであり、それをまとめるための校内支援会議も開く必要があるでしょう。

④ 地域社会との連携

- ・ 交流学習を設定する場合は、相手校とその目的や活動内容について入念に打ち合わせをする必要があります。
- ・ 地域住民との交流も、社会生活に向けた準備としては欠かせません。
- ・ 本校では、町民公開授業を年に3回設定しているほか、一部学校行事を一般公開しています。
- ・ 生徒が買い物学習などで町内を歩く際、すれ違う町民に向けて必ず挨拶をさせるように指導しています。
- ・ このような取り組みを通して、地域の方々に生徒のことを理解していただき、教育活動に協力していただける地域づくりが進んでいます。買い物で困っている生徒を助けていただいたり、町の行事に呼んでいただいたり、全町民が後援会会員になっていただいていることも、こうした取り組みの積み重ねがあるからこそだと思います。

♪ 連携のポイント（本校の3年間をもとに） ♪

- ① 目的を明確にし、共有する。
- ② 膝を突き合わせて、話し合う。
- ③ 連絡は相互に、こまめに行う。勝手に予定を変更しない。
- ④ 学校の教育活動に理解を得られるような工夫を凝らす。

お わ り に

特別支援教育において、生徒の将来的な社会参加・自立を目指した「生きる力」の育成は教育活動における最大の目標の一つであることは言うまでもありません。目まぐるしく変化・発展する社会情勢において、まさに、学校3カ年における「キャリア教育」の更なる充実・発展こそが高等養護学校の喫緊の目標であり、また、中学校との継続的な連携・連動、高等学校との連携・協力体制が急務の課題であります。

今年度も引き続き、本校全体として「キャリア教育」に係るさまざまな取り組みを行っていますが、このような取り組みを校内的なものとしてだけではなく、校外的にも積極的に情報発信し、関係機関の皆様との連携・協力のもと、知識や情報を共有しながら「キャリア教育」を推進していくことの必要性を強く感じています。さらに、そのような状況の中で教員・学校のレベルアップを図ることが何よりも大切なことであると捉えています。

これからの「共生社会」に向けて、生徒一人一人が夢や希望を持ちながら充実した社会生活が送れるよう、本校は今後も「キャリア教育」に係る研究・研修を推進していきたいと考えています。今後も本校の教育活動に対する御理解・御協力とともに、さまざまな交流機会を通じての御支援・御指導をいただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

平成26年8月

北海道今金高等養護学校教頭

佐 藤 公 人

参考・引用文献

中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』2011年1月
下村秀雄著『キャリア教育の心理学 大人は、子どもと若者に何を伝えたいのか』東海教育研究所、2009年
山崎保寿編『キャリア教育の基礎・基本―考え方・実践事例・教材・重要資料集―』学事出版、2013年
文部科学省『2013年度学校基本調査』
厚生労働省『若者雇用関連データ』
北海道教育庁『道立特別支援学校高等部卒業生の就職状況』
北海道庁経済部雇用労政課『有効求人倍率（常用）の推移』
北海道庁経済部雇用労政課『平成25年3月新規高卒未就職者に関する状況把握（5月末・6月末）』
内閣府『平成24年度版 子ども・若者白書』
内閣府『平成26年度版 子ども・若者白書』
文部科学省 国立教育政策研究所『キャリア教育を創る 学校の特色を生かして実践するキャリア教育』2011年
北海道特別支援教育センター 平成24年度キャリア教育研修講座資料
北海道今金高等養護学校 研究推進委員会 キャリア教育学習資料 学年用・学科用（2012・13年度全教職員に配布）
北海道今金高等養護学校 研修部 キャリア教育共通理解資料（2014年度始に全教職員に配布）
石塚謙二編『特別支援教育×キャリア教育 インターンシップ・就労支援はここまで変わる』東洋館出版社、2009年

いまようからの キャリア教育のすすめ

～障がいがある児童・生徒を指導・支援されている学校の皆様へ～

2014年8月1日 初版発行

発行 北海道今金高等養護学校

研修部 矢倉 一 近藤和也 鈴木絢子 野呂篤志 出村朱美

〒049-4304 北海道瀬棚郡今金町字今金 454 番地 1

電 話 0137-82-3121

メール imayou@hokkaido-c.ed.jp

WEB <http://www.imayou.hokkaido-c.ed.jp/>

